30p-A4-2

電子線やレーザ照射による ⁵⁷Fe 蒸着シリコン中の Fe 挙動 Fe Behavior in ⁵⁷Fe-deposited Silicon by EB and Laser Irradiation 静岡理工科大¹, フォトンデザイン² ⁰田中清高¹, 塚本美徳¹, 清水良祐², 吉田 豊¹ Shizuoka Institute of Science and Technology (SIST)¹, PHOTON Design² [°]K. Tanaka¹, Y. Tsukamoto¹, R. Shimidzu², and Y. Yoshida¹ E-mail: k-tanaka@ob.sist.ac.jp

【はじめに】シリコン系太陽電池中のFeに関する知見を得ることは,発電効率の向上のために重要である。我々は,独自に開発した⁵⁷Feに応答する顕微メスバウア分光装置[1]と汎用のフォトルミネッセンス(PL)装置を用いて,シリコン中のFeの挙動を検討してきた。前回は、レーザ照射(PLマッピング)によってFe汚染多結晶シリコンのメスバウア・スペクトルが変化することを報告した[2]。 今回は、加速電圧を変えた電子線、あるいは波長の異なるレーザによってFe蒸着境界を局所照射してFeの挙動を検討した。

【実験方法】HF 処理した 10mm 角の多結晶と単結晶シリコン上 に、8×3mm²のマスクを用いて膜厚 1.7nm の⁵⁷Fe を蒸着した。そ の後、熱処理や試料全体へのレーザ照射等は行わなかった。 Fig. 1 に示す様に、左側の⁵⁷Fe 蒸着境界に、電子プローブ・マイ クロアナライザ(島津製作所 EPMA-1720)を用いて、加速電圧を 5~15kV とした電子線で 1mm 角の局所照射を行った。一方、右 側の蒸着境界には、顕微 PL 装置(フォトンデザイン MPL-800-SRD)を用いて、DPSS レーザ(532nm)あるいは He-Cd レーザ(325nm)で 2mm 角と 1mm 角をそれぞれ局所照射した。

【結果と考察】Fig. 2 は p 型多結晶シリコン上の蒸着境界に電 子線で局所照射した時の Fe Ka像を示す。なお,加速電圧 5kV は Fe Ka線の励起電圧よりも低いために, Fe Ka像は原理的に 得られない。10kVと15kVの Fe Ka像を比較すると,15kVの方 が ⁵⁷Fe によるコントラストが強く現れた。この傾向はいずれのシリ コンウエハでも同じであった。電子線の進入深さをモンテカルロ シミュレーションで計算すると,Siの場合は加速電圧 5,10,15kV の時にそれぞれ 0.42, 1.58, 3.26µmとなり,蒸着した⁵⁷Fe は電子 線によって数µmの深さまで進入している可能性がある。

Fig. 3 は n 型単結晶シリコン上の蒸着境界に DPSS レーザで 局所照射した時の強度マップと,破線部のプロファイルを示す。 中央に位置する蒸着境界の右側に約 200µm の幅で PL 強度が 均一な領域(青)が存在し,更にその右側には約 300µm の幅で急 激に増加する領域(黄緑~オレンジ)が存在した。これは局所的 なレーザ照射によって蒸着した ⁵⁷Fe が移動したと考えられる。

当日は、開発中の顕微メスバウア分光、EPMA、PL で各シリ コンウエハの同一視野を観察し、電子線やレーザによる局所照 射時の置換格子位置Feや格子間Feの挙動について報告する。



Fig. 1. A schematic drawing of ⁵⁷Fe-deposited area and EB and laser irradiation area.



Fig. 2. Fe K α images of ⁵⁷Fe-deposited p-type mcSi wafer obtained by EPMA with accelerating voltage at (a)10 and (b)15 kV.



Fig. 3. PL intensity mapping and its line profile of ⁵⁷Fe-deposited n-type single crystal Si wafer.

【謝辞】本研究は、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「省資源型の地域産業創成を目指した微量元素 分析・マッピング技術の開発と応用」、および JST「先端計測分析技術・機器開発事業」の一部として行われた。 [1] 例えば、Y. Yoshida *et al.*, Hyperfine Interact., **198** (2010) 23.

[2] 田中清高, 塚本美徳, 清水良祐, 吉田 豊, 2012 年秋季応用物理学会 13p-PB12-8.